

120617 フタリシズカ

今、南河内の山では「フタリシズカ」の花がひっそりと咲いています。

山林内の少し暗い場所を好んで生育していますが、和名“二人静”とは「静御前」とその亡霊の舞姿に例えたものだと言われています。

この「静御前」につきましては、「吾妻鏡」では次のような記述が出てきます。

『源平合戦の後、兄の源頼朝と対立した義経が京を落ちて九州へ向かうとき、静御前も同行したが、吉野で義経と別れて京へ戻ることになった。

その途中で山僧に捕らえられ、京の北条時政に引き渡された後、鎌倉に送られた。

鎌倉で静御前は、頼朝から鶴岡八幡宮の前で白拍子を舞うよう命じられた。

静御前は、

「しづやしづ しづのをだまき くり返し 昔を今に なすよしもがな」

「吉野山 峰の白雪 ふみわけて 入りにし人の 跡ぞ恋しき」

と義経を慕う歌を唄い、頼朝を激怒させた。』

写真 : 「フタリシズカ」と「マムシグサ」

写真 : 「フタリシズカ」

右側の「マムシグサ」に押されるように、「フタリシズカ」の花が咲いています。

山林内の少し暗い場所を好むようで、2本の花序を能楽「二人静」の静御前とその亡霊の舞姿に例えての命名であることは先に述べましたが、花序が3～5本付いている個体も結構見かけます。

写真 ・ : 「オカタツナミソウ」を訪れる「トラマルハナバチ」

花粉の媒介者として有名なマルハナバチの一種です。

体長は2cm弱くらいで、毛が多く丸い体型をしていますので、花の中に潜ると体中に花粉が付くのです。

(写真の個体も、花の中に顔を突っ込んでいますね...)

写真 : 「ナルコユリ」

もうそろそろ花の時期も終えようとしており、しぼんでしまった花を付けている個体をよく見かけるようになりましたが、まだまだ咲いている個体もあるようです。

少し葉の幅が広いので、「ミヤマナルコユリ」かも知れません...









